

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272500511		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉の会 流山ユー・アイネット		
事業所名	グループホーム「わたしの家」 (桂 棟)		
所在地	千葉県流山市西深井176-1		
自己評価作成日	平成23年3月2日	評価結果市町村受理日	平成23年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAIC—コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成23年4月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員の子供が、身近に居ることにより、様々な世代の人々が、一緒に生活している。職員の年齢層も幅が広く、利用者も安心して暮らし、アットホームな雰囲気である。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>訪問した時は、ホームの庭にある入居者家族が寄贈した桜が満開であった。当日は、桜の下で花見を兼ねた昼食会が催され、入居者同士や職員との会話が弾んでいた。ホームには設立当初より家族会ができており、家族運営の下、3ヶ月に一度集まっている。そこで出された意見、要望、提案は職員間で話し合われ、次回の開催日に結果を伝えるようにしている。ホームに対する家族の信頼も厚く、管理者・職員は理念である『安心、尊厳、信頼』を実践に繋げるべく努めており、入居者がのびのびと生活を楽しんでいる様子が伺えた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかかわりを大事にし、理念はみんなでも共有できるように、理念についての研修を行っている。	管理者はホーム開設時に、職員みんなが覚えやすい理念を策定した。研修では、理念に関する思いや考え方を職員共々が文書にし、互いに発表しあい、意見交換することで理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や会話等 食事会や子供会、自治会又は生き生き体操等 地区活動に参加している。	自治会や地区社協の会合には管理者自ら出席している。また、ゴミゼロ運動などの地域活動には、入居者も一緒に参加している。ホームが主催する夕涼み会には入居者家族の他、地域住民が子供連れで参加し、模擬店などを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターが行っている色々な研修会又は認知症をかかえる家族の会等に参加し、相談・支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価とも公表し、話し合いの中から意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、家族会代表、職員が参加している。主に運営状況、活動報告、入居者の現状報告などを行なっている。年3回実施しているが、内容が主催者の報告中心で一方的に終わる。	入居者本位のサービスは家族、職員、行政を含む地域の協力が欠かせない。ホームの課題や地域での役割について率直に意見交換することで、少しでもサービス向上に繋がる会議となるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会における、市町村の参加。交流等、様々な事柄において密に連絡を取り合っている。	市主催のグループホーム連絡会や県主催の地域密着型サービス運営協議会に参加している。行政の担当者とは電話や訪問などで連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いっさいの拘束を禁じ、開設以来、いかなる拘束も行っていない。職員にも具体的な行為を周知徹底している。	全ての身体拘束を禁じている。ベットの柵や玄関の施錠は無く、言葉による拘束も互いに注意しあっている。研修で得た事例などは他の職員にフィードバックし、不穏な状態や徘徊のある利用者にも徹底の見守りを通してしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所において、いかなる虐待をも見過ごす事なく、最善の注意を払っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を司法書士の先生の研修を行い、家族、職員等参加、話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとり説明を行っている。 不安や疑問点に対する説明も充分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をもうけており、その中でホームの運営に関して話しており、家族の意見や要望を反映するようにしている。	家族会が3ヶ月ごとに、家族会会長の主催で開催されている。入居者の状況、医療対応などのテーマで話し合われる中から、ホームへの要望や提案が出されることがある。また家族訪問の多い土日には、管理者は極力家族と話す時間をとるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等において職員の意見や提案を聞き反映している。	日々の申し送りノートを通じて、職員意見を把握している。2、3ヶ月に一度行なうケース会議、ユニット合同の全体ミーティングなどでも職員は自由に意見し、提案を行い、運営に反映させている。また、年2回管理者は個人面談を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等把握し、向上心を持って、働けるよう色々な面で、やりがいがあるように努力しているがなかなか職員が、満足できる要望までには至っていないのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、外部研修に行く機会を与えたり、内部研修等も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会にて、相互訪問を行っていて、ネットワーク作りは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接により本人の情報を職員全員で共有する事と、入所直後は極力本人と過ごせるようにして、安心・信頼づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接で、どのような経緯で現在に至ったのか？など、出来る限り家族の立場で共感するようにしている。又こまめに報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族が最も入居にあたって心配、不安な事を聞き出し混乱に敏感に対応できるように、行動表情を観察している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を重視しているので、時には一緒にお茶を飲みながら、TVを一緒に見て談笑したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、ケアに関しても、家族と一緒に考え、一方的なケアにならないように、できる時は家族にもケアをしてもらっている。(入浴・トイレ等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の記憶にある、馴染みの人、場所は情報を得た中で、会話の中にとりいれるようにしているが、実際にその場所やひとに会うのは家族に話すのみである。	センター方式の「私の支援マップシート」を家族に記入してもらい、これまでの生活を把握している。入居後も本人や家族から出来る限り情報を得ながら、友達の訪問や電話の取り次ぎを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、個人個人の性格や相性を考えて、座席や何かと関われるように、常に職員同士気をくばっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は退去の仕方にもよるが、ここ一年は亡くなった方の退去のみで、時々連絡をしたりはする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の気持ちを汲み取るように、話を聞くように努力している。職員間でそのような本人の気持ちを話し合う事が多い。	普段の生活で、入居者の表情や行動を観察することによりそれぞれの思いや希望を汲み取ることが出来る。また、入浴時、散歩時及び入居者同士の会話の中からも本音が聞ける場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報等をセンター方式を利用し、職員全体で、その人の人生を把握している。入居後は本人からの話をつけ加えていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で、個々の生活の仕方を把握している。こまめに個人を観察し、表情や行動でケアの方法も変えながら、日々ケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアについては、面会時などに、家族に対しては、随時・報告・相談を行い、意向を聞き入れ活かしている。必要に応じてDrやNsからも意見をもらいケアプランをたてている。モニタリングも月一回行っている。	家族の面会時に、ケアについての要望を聴き取るようにしている。2、3ヶ月に一度、全職員で行う全入居者のカンファレンスやケア記録などを参考に介護計画を作成している。ケアサービスでの些細な気づきを計画に反映できると更によい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に本人と職員の言葉のやりとりを記載し、情報の共有をしやすくしている、ケース記録のタイトル欄を見直し、チェックし、介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア・訪問歯科等はあるが、他のサービスは特に行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ではスーパーに出かけたり、小学生と時々交流したり、老人会の行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族了解のもと協力医に受診している。適切な医療が受けられるように、受診前に担当事務員に連絡し、情報提供を事前に行っている。	かかりつけ医については家族了解の下、ホームの協力医への受診支援を行っている。また、月2回、訪問診療も行われている。専門医については、従来からのかかりつけ医に家族の協力を得て通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2・3回の訪問看護訪問日に個人々の変化や聞きたい事を、どんな細かな事でも相談し、24時間指示を受けられる関係になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーでやりとりしているが、個人情報保護により、入院中の情報はHPからはもらえない為、訪看Ns等に協力をしてもらいながら相談したり家族を含めて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年に入り、家族に対して、個々に終末期に対する家族の意向を尋ねている。その際には、ホームで何か出来るかも、きちんと説明している。	ホームの終末期ケアの方針は出来ており、家族には個別に看取りについての意向を確認している。過去にも看取りの経験があり、医療関係者との連携や職員の意思統一も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で定期的に救急対応の確認をしたり、様々起きる事故や急変時の初期対応を訪看も含め定期的又は随時再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は年2回火災訓練の他に突発の昼訓練・夜訓練も行い、全員が対応できるように努力している。又近所や消防団にも協力検討中である。	消防署の協力を得て行う年1回の防災訓練の他、ホーム独自の訓練も行っている。夜に行われる職員会議の後、予告なしで夜間想定避難訓練を行ったこともある。	色々な災害を想定した訓練や災害時の対応フローチャート作りの整備も必要と思われる。また、地域住民との協力体制作りも期待したい。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけやケアに関しても、一人ひとりの個性を大切にしながら、声掛けには充分気を使いながら行うようにしている。	管理者は常日頃から全職員に、入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに注意を促している。また、入居者の対応や言葉かけでの気づきなどを職員間でも話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のささいな会話の中から、希望や思いを拾い出すように努力している。色々な事に対しても自己決定できる環境や声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて生活してもらっている。その中に時折声かけし外出したり、お茶したり、手伝いが出来る環境を工夫しながら取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は、その人の好みを知り、その人らしい服装が出来るように声かけ等をしている。(重ね着をしている時など)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備も自然と一緒にできる様に工夫している。(声かけ・環境)食事も談笑ができる様に席を決めている。	訪問当日は、ホーム庭の満開の桜の下での食事であった。入居者、職員が和やかに語りながら、唄あり、踊りありの楽しい食事のひと時になった。また、時にはファミリーレストラン、回転ずし、ホテルなどで外食を楽しむこともできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の好みや身体・歯の状態に応じて、一人ひとり対応している。水分も極力とれるように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人には声掛けにて行い、嚥下障害のある人は、特に注意して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを24時間チェックしているので、それに応じて、出来るだけ失禁なく、トイレで排泄できるように誘導している。	排泄チェック表を活用し、羞恥心への配慮もしながらトイレ誘導を行っている。排泄に課題があった入居者も、チェック表により早めの誘導を行うことで効果が得られた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの人に対しては、ヤクルト等を利用したり、排泄予想日に散歩したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日、その時の利用者の気分に応じて入浴は決めている。嫌な時は無理に入れないようにしている。	入浴は最低でも週2回は入るよう支援している。希望すればいつでも対応可能になっている。入浴しながら入居者には家族の協力を得るなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息は、一人ひとりの状態を把握しながら、随時声掛けし、ソファーや居室に誘導している。特に夜間は入眠前の安心した声掛けに重点を置いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	昨年よりは薬を意識できるようになってきたが、まだ全員が把握するまでに至っていないが、薬を変更した時などは、よく観察出来ている思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や習慣を活かした役割を促すように心がけている。気分転換時好みを活かせるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等は、その人の気分に応じてその都度行けるようにしている。普段行けない場所などは、家族中心に支援してもらっている。	天気の良い日は、出来る限り外に出る機会を作っている。車椅子利用の入居者も庭に出て日光浴を楽しめるよう、小道が作られている。家族の協力を得て、お墓参りにも行けるよう支援している。	

グループホーム「わたしの家」

自己評価(桂棟)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により、お小遣い程度を所持している人もいます。時々買い物等で使用しているが、だんだんと使えなくなる人が増えてきた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日・贈り物等何かあった時の御礼電話を本人によって行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を置いたり、季節を感じる物を置いたり工夫している。	入居者が一日で一番長く過ごす場所でもあるリビングは、入居者同士の団欒の場になるようソファの配置を工夫した。訪問当日も賑やかな話し声が聞こえていた。四季を感じられるよう、季節の花を飾るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子等は数ヶ所に設置しており、各利用者一人だったり、二人で談話していたりと活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のセッティングに関しては、必ず家族と相談しながら行い、その人の認知症状、行動を想定しながら工夫している。	居室には畳の部屋とフローリングの部屋がある。各居室には使い慣れた家具等が持ち込まれ、思い思いの装い付けで、安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な物も自分でできる様に、チョットした声掛けを行ったり、自然と環境を整えたりしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所